

第46回 IRIDeS 金曜フォーラム

日時：平成29年6月23日（金）16時30分～18時30分

会場：東北大学災害科学国際研究所1階 多目的ホール（仙台市青葉区荒巻字青葉468-1）

テーマ：「若手によるこれからの災害研究」

1. 16:30～17:00（発表20分）

タイトル：地理情報システム(GIS)を利用した熊本地震における活断層と地震断層出現位置の比較

話題提供者：今野 明咲香（災害理学研究部門 国際巨大災害研究分野）

概要：内陸大地震では、地震動のみならず断層変位（ズレ）によっても構造物が被災する。そのため、活断層の位置を予め正確に把握することが重要となる。しかし、地表地震断層が明確に現れる地震の頻度は十年弱に一度で、予測との比較可能な機会は少ない。2016年に発生した熊本地震では日奈久断層と布田川断層沿いに約30kmにわたり地表地震断層が出現した。地震前に図示されていた活断層と実際に出現した地表地震断層の一致具合や離隔距離を求められる数少ない例である。そこで本研究では、地理情報システム（GIS）を使用して推定断層と地表地震断層の水平距離の差を定量的に把握し、活断層沿いの被災範囲の予測に有用となるような統計的な検討を実施する。

2. 17:00～17:30（発表20分）

タイトル：「奥尻の子ども」の災害研究者としての歩み

話題提供者：定池 祐季（情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）

概要：発表者は北海道南西沖地震（1993年）を、最大の被災地となった奥尻島で経験した。その後、災害研究を志し、災害社会学、地域社会学から奥尻島や噴火常襲地である有珠山を主なフィールドとして「災害文化」「防災教育」に関する調査研究に携わっている。本発表では、「奥尻の語り部」「研究者」の立場から、奥尻島と有珠山周辺地域の防災教育の変遷、東日本大震災後の沿岸被災地で関わった防災教育と心のケア活動について紹介する。

3. 17:30～18:00（発表20分）

タイトル：社会人類学における災害時の「死のマネジメント」

話題提供者：ボレー セバスチャン（情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野）

概要：自然災害によって被災した地域社会でのご遺体の処置（死亡確認・処置、埋葬など）や犠牲者のメモリアル（葬儀、慰霊祭、慰霊碑、慰霊場（公園）など）の役割について研究している。大災害発生時に、ご遺体の処置が滞ることで、ご遺族や犠牲者と関係のあったコミュニティは震災の恐ろしさに加え心的外傷（トラウマ）を被る可能性がある。本発表では、ご遺体の処置から追悼供養までのメモリアルの推移、そして「死のマネジメント」研究プロジェクトについて報告する。

4. 18:00～18:30（発表20分）

タイトル：うつ病の個別化予防、個別化医療技術開発に向けた数理、機械学習の応用
～被災地域の健康問題解決に向けたアプローチ～

話題提供者：飯田 溪太（災害医学研究部門 災害精神医学分野）

概要：災害が被災住民のこころの健康に長期の影響をもたらすことは東日本大震災被災地域においても認められ、「うつ状態」の予防や対応は災害復興の中でも最重要課題の一つといえる。しかし、「うつ状態」を客観的に捉えることは困難であり、また、その成因が多様であることは予測を困難にしている。演者は、東北メディカル・メガバンクに集積された巨大データをもとに、うつ病の客観的評価や個別予測を可能にするAMEDの技術開発プロジェクトに数理の専門家として取り組んでいる。数理的手法を駆使したうつ克服を通して、被災地域のこころの復興に寄与したい。

司会・進行：寺田賢二郎（地域安全工学研究分野）